

早期臨床体験：医療人としてのヒューマニズム

責任者・コーディネーター	薬学教育学分野 白石 博久 特任教授		
担当講座・学科(分野)	分子細胞薬理学分野、薬物代謝動態学分野、臨床医化学分野、生体防御学分野、地域医療薬学分野、情報薬科学分野、衛生化学分野、薬学教育学分野		
対象学年	2	区分・時間数	実習 58.5 時間
期 間	通年		
単 位 数	2 単位		

・学修方針（講義概要等）

専門科目が本格的に始まった2年生として、臨床に関わる様々な事象を体験、討論、グループワークを通して学び、考える。将来、薬剤師として自らが目指す目標を考え、今後の学びの礎とする。

また、6年制薬学教育では、5年次における長期の実務実習が必修とされ、そのための基本的能力（知識・技能・態度）を適切に評価するための薬学共用試験（CBTとOSCE）が4年次に実施される。そこで、薬学共用試験を中心として、薬剤師国家試験も含めて、その理解を深めることを目的としたSGLとまとめの発表を行う。

・教育成果（アウトカム）

医療人としての倫理観を醸成すること、災害医療を学ぶこと、施設での介護を体験すること、そして学ぶということの意義を理解することなどを通して、「誠の医療人」を目指す自覚を確立できるようになる。

また、薬学共用試験、薬剤師国家試験に関して、各班で自らテーマを設定し、資料調査、ディスカッション、発表することで、CBT・OSCE・国試に対する認識と理解が深まり、学習意欲を醸成できる。

（ディプロマ・ポリシー：1～9）

・到達目標（SBO）

人の一生と医療に関わる生命倫理

1. 生と死、医療などに関わる倫理的問題を、生命倫理の諸原則等に基づき説明できる。（☆）
2. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性と難しさを説明できる。（☆）
3. 患者・患者家族・生活者の視点から、求められる医療人像やチーム医療のあり方について討議する。（☆）

薬学共用試験および薬剤師国家試験について考える

1. SGLにより薬学共用試験、薬剤師国家試験の仕組みを理解し説明できる。（☆）
2. グループで協力してまとめた成果を発表し、全員で情報を共有する。（☆）
3. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(47) (技能・態度)
4. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(48) (技能・態度)
5. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(49) (知識・技能・態度)

被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ

1. 東日本大震災について岩手県の状況を説明できる。（☆）
2. 東日本大震災について岩手県の復興状況を説明できる。（☆）

3. 災害時の避難所の運営の難しさを体験し、適切な運営方法について説明できる。(☆)
4. 災害時の薬剤師の役割に関して概説できる。(☆)
5. 災害時の薬局の役割について説明できる。(110)
6. 災害時医療について概説できる。(1058)
7. 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。(1059)
8. 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(1060)

介護・福祉施設での患者とのコミュニケーションを体験する

1. 介護・福祉施設における薬剤師業務と薬剤師の役割を説明できる。(☆)
2. コミュニケーションを通して、患者にかかわり、好ましい関係を保つ。(50,51) (態度)
3. チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(3) (態度)
4. 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。(52)

コミュニケーション入門、地域医療を学ぶ、未来の薬剤師像を描く(ドリームナビ)

1. コミュニケーションに必要な要素を説明できる。(41,42,43,44)
2. コーチングとティーチングのスキルの違いを説明できる。(44)
3. 傾聴、承認、質問の基本スキルを説明できる。(45, 46, 47, 48)
4. 友人、関わる人々と好ましいコミュニケーションをとる。(49) (態度)
5. 介護体験実習の目的と注意事項を説明できる。(☆)
6. 認知症患者の行動を知り、認知症の患者と接するときの心構えを説明できる。(50,51) (態度)
7. 生活者本位の医療や介護の提供のあり方を説明できる。(112,113,115)
8. 地域医療におけるファーマシューティカルケアを説明できる。(10)
9. 患者本位の医療提供のあり方を検討する。(☆) (態度)
10. 社会の中で貢献し活躍している自分の将来像を描ける。(65) (技能)

・ 講義日程

(矢) 西 106 1-F 講義室

人の一生と医療に関わる生命倫理

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/12	金	2	生体防御学分野	大橋 綾子 教授	人の一生と医療に関わる生命倫理 (1)導入講義 1. 生と死、医療などに関わる倫理的問題を、生命倫理の諸原則等にに基づき説明できる。 事前学修：1年次の倫理の講義の復習をしておくこと。 事後学修：講義プリントの復習を行うこと。
4/15	月	1	生体防御学分野	大橋 綾子 教授	人の一生と医療に関わる生命倫理 (2)課題の提示 教材視聴 1. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性と難しさを説明できる。 事前学修：第1回講義プリントの復習を行うこと。 事後学修：指定課題の考察を各自行うこと。

4/15	月	2	生体防御学分野	大橋 綾子 教授	<p>人の一生と医療に関わる生命倫理 (3) 教材視聴 SGD 役割分担</p> <p>1. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性と難しさを説明できる。</p> <p>事前学修：第1回講義プリントの復習を行うこと。</p> <p>事後学修：指定課題の考察を各自行い、グループワークに備えること。</p>
4/15	月	4	生体防御学分野	大橋 綾子 教授	<p>人の一生と医療に関わる生命倫理 (4)SGD</p> <p>1. 患者・患者家族・生活者の視点から、求められる医療人像やチーム医療のあり方について討議する。</p> <p>【グループワーク】</p> <p>事前学修：指定課題の考察を行い、グループワークに備えること。</p> <p>事後学修：グループ内で分担した作業を各自行うこと。</p>
4/17	水	3・4	生体防御学分野 薬学教育学分野 生体防御学分野	大橋 綾子 教授 白石 博久 特任教授 錦織 健児 助教	<p>人の一生と医療に関わる生命倫理 (5)ディベート形式</p> <p>1. 患者・患者家族・生活者の視点から、求められる医療人像やチーム医療のあり方について討議する。</p> <p>【グループワーク】</p> <p>事前学修：ディベート形式での討議に備えて、グループ内で出た意見を整理しておくこと。</p> <p>事後学修：ディベート形式を通じて学んだことの振り返りを行うこと。</p>
4/18	木	2	生体防御学分野	大橋 綾子 教授	<p>人の一生と医療に関わる生命倫理 (6) SGD 発表準備</p> <p>1. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性と難しさを説明できる。</p> <p>2. 患者・患者家族・生活者の視点から、求められる医療人像やチーム医療のあり方について討議する。</p> <p>【グループワーク】</p> <p>事前学修：発表会の準備の仕上げを行うこと。</p> <p>事後学修：発表会で学んだことを整理すること。</p>

4/19	金	1・2	生体防御学分野 薬学教育学分野 生体防御学分野	大橋 綾子 教授 白石 博久 特任教授 錦織 健児 助教	人の一生と医療に関わる生命倫理 (7) (8)発表会 1. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性と難しさを説明できる。 2. 患者・患者家族・生活者の視点から、求められる医療人像やチーム医療のあり方について討議する。 【グループワーク】 事前学修：発表会の準備の仕上げを行うこと。 事後学修：発表会で学んだことを整理すること。
------	---	-----	-------------------------------	------------------------------------	--

薬学共用試験および薬剤師国家試験について考える

5/1	水	4	臨床医化学分野 臨床医化学分野 薬物代謝動態学分野	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授 幅野 涉 教授	概要説明、テーマ設定 1. 薬学共用試験、薬剤師国家試験の仕組みを理解し、説明できる。 事前学修：薬学共用試験、薬剤師国家試験について、予め調べておくこと。 事後学修：グループで話し合ったことを個人的に整理しておくこと。
5/10	金	4	臨床医化学分野 臨床医化学分野	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授	テーマの選定・確認、資料調査 1. 薬学共用試験、薬剤師国家試験に関する適切な資料を収集することで、薬学共用試験、薬剤師国家試験の仕組みを理解し、説明できる。 【グループワーク】 事前学修：前回グループで話し合ったことを整理しておくこと。 事後学修：収集した資料やグループで話し合ったことを個人的に整理しておくこと。
5/22	水	2	臨床医化学分野 臨床医化学分野 薬物代謝動態学分野	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授 幅野 涉 教授	テーマ公表、資料調査 1. 薬学共用試験、薬剤師国家試験に関する適切な資料を収集することで、薬学共用試験、薬剤師国家試験の仕組みを理解し、説明できる。 【グループワーク】 事前学修：前回の調査結果を整理しておくこと。 事後学修：収集した資料やグループで話し合ったことを個人的に整理しておくこと。

5/24	金	4	臨床医化学分野 臨床医化学分野 薬物代謝動態学分野	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授 幅野 渉 教授	資料調査、取りまとめ、発表準備 1. SGLにより薬学共用試験、薬剤師 国家試験を認識し、説明できる。 2. グループで協力してまとめた成果 を発表し、全員で情報を共有できる。 【グループワーク】 事前学修：前回の調査結果を整理して おくこと。 事後学修：収集した資料やグループで 話し合ったことを個人的に整理してお き、次回の発表に備えること。
6/11	火	3・4	臨床医化学分野 臨床医化学分野 薬物代謝動態学分野	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授 幅野 渉 教授	全体発表会 1. 適切な聴き方、質問をすること で、相手の考えや感情を理解するよう に努める。(技能・態度) 2. 適切な手段により自分の考えを相 手に伝えることができるようになる。 (技能・態度) 3. 他者の意見を尊重し、協力してよ りよい解決法を見出すことができるよ うになる。(知識・技能・態度) 【プレゼンテーション】 事前学修：グループで作成したプレゼ ンテーションファイルに基づいて発表 できるように準備しておくこと。 事後学修：他のグループの発表につい て、個人的に振り返ってみること。

被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ及び施設での介護を体験する

5/13	月	1・2	薬学教育学分野 分子細胞薬理学分野 情報薬科学分野	白石 博久 特任教授 高橋 巖 特任講師 佐京 智子 助教	被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ ・避難所運営を体験する。 1. 災害時の避難所の運営の難しさを体験 し、適切な運営方法について説明でき る。 【ロールプレイ】 事前学修：あらかじめ指定されたテーマ に関してグループ内で分担して資料を収 集しておくこと。
		3	薬学教育学分野 生体防御学分野 地域医療薬学分野	白石 博久 特任教授 大橋 綾子 教授 高橋 寛 教授	被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ ・沿岸被災地について事前学修する。 1. 東日本大震災について岩手県の状 況を説明できる。 2. 東日本大震災について岩手県の復 興状況を説明できる。 【グループワーク】 事後学修：作成したプレゼン資料を見 直しておくこと。

5/14	火	1~4	薬学教育学分野 分子細胞薬理学分野	白石 博久 特任教授 湊谷 寿邦 非常勤講師	被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ (グループ A) ・沿岸被災地を訪問し、行政や薬剤師の説明を聞く(3~4 限)。 ・沿岸被災地の現状を把握する。 1.被災地の震災当時の状況を説明できる。 2.被災地の現状を説明できる。 3.災害時の行政の役割を説明できる。 4.災害時の薬剤師の役割を説明できる。 【フィールドワーク】 事前学修：各グループでまとめた資料を見直しておくこと。コミュニケーションスキルを復習しておくこと。 事後学修：現地の資料をグループ内で分担してまとめておくこと。
5/14	火	1~4	地域医療薬学分野 生体防御学分野	高橋 寛 教授 錦織 健児 助教	介護・福祉施設で患者とのコミュニケーションを体験する (グループ B) ・患者とコミュニケーションする。 ・病院食と輸液の味見を体験する。 1.介護・福祉施設における薬剤師業務と薬剤師の役割を説明できる。 (☆) 2.コミュニケーションを通して、患者にかかわり、好ましい関係を保つ。 (態度) 3.チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度) 4.保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。 【フィールドワーク】【体験型学習】 事前学修：事前課題の内容を見直しておくこと。コミュニケーションスキルを復習しておくこと。 事後学修：実習で体験した内容をまとめておくこと。各自で感想文を作成し提出すること。

5/15	水	1~4	薬学教育学分野 薬学教育学分野	白石 博久 特任教授 松橋 昌平 非常勤講師	被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ (グループB) ・沿岸被災地を訪問し、行政や薬剤師の説明を聞く(3~4限)。 ・沿岸被災地の現状を把握する。 1.被災地の震災当時の状況を説明できる。 2.被災地の現状を説明できる。 3.災害時の行政の役割を説明できる。 4.災害時の薬剤師の役割を説明できる。 【フィールドワーク】 事前学修：各グループでまとめた資料を見直しておくこと。コミュニケーションスキルを復習しておくこと。 事後学修：現地の資料をグループ内で分担してまとめておくこと。
5/15	水	1~4	地域医療薬学分野 薬物代謝動態学分野	高橋 寛 教授 幅野 渉 教授	介護・福祉施設で患者とのコミュニケーションを体験する (グループC) ・患者とコミュニケーションする。 ・病院食と輸液の味見を体験する。 1.介護・福祉施設における薬剤師業務と薬剤師の役割を説明できる。(☆) 2.コミュニケーションを通して、患者にかかわり、好ましい関係を保つ。 (態度) 3.チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度) 4.保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。 【フィールドワーク】【体験型学習】 事前学修：事前課題の内容を見直しておくこと。コミュニケーションスキルを復習しておくこと。 事後学修：実習で体験した内容をまとめておくこと。各自で感想文を作成し提出すること。
5/16	木	1~4	薬学教育学分野 薬学教育学分野	白石 博久 特任教授 金野 良則 非常勤講師	被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ (グループC) ・沿岸被災地を訪問し、行政や薬剤師の説明を聞く(3~4限)。 ・沿岸被災地の現状を把握する。 1.被災地の震災当時の状況を説明できる。 2.被災地の現状を説明できる。 3.災害時の行政の役割を説明できる。 4.災害時の薬剤師の役割を説明できる。 【フィールドワーク】

					<p>事前学修：各グループでまとめた資料を見直しておくこと。コミュニケーションスキルを復習しておくこと。</p> <p>事後学修：現地の資料をグループ内で分担してまとめておくこと。</p>
5/16	木	1~4	<p>地域医療薬学分野 衛生化学分野</p>	<p>高橋 寛 教授 米澤 穂波 助教</p>	<p>介護・福祉施設で患者とのコミュニケーションを体験する (グループA)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者とコミュニケーションする。 ・病院食と輸液の味見を体験する。 <p>1. 介護・福祉施設における薬剤師業務と薬剤師の役割を説明できる。(☆)</p> <p>2. コミュニケーションを通して、患者にかかわり、好ましい関係を保つ。 (態度)</p> <p>3. チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)</p> <p>4. 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。</p> <p>【フィールドワーク】【体験型学習】</p> <p>事前学修：事前課題の内容を見直しておくこと。コミュニケーションスキルを復習しておくこと。</p> <p>事後学修：実習で体験した内容をまとめておくこと。各自で感想文を作成し提出すること。</p>
5/17	金	1・2	<p>薬学教育学分野</p>	<p>白石 博久 特任教授</p>	<p>被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ ・沿岸被災地についてまとめる。</p> <p>1. この1週間で学んだことを発表することができる。</p> <p>【グループワーク】</p> <p>事前学修：これまでに集めた資料を整理しておくこと。</p> <p>事後学修：作成したプレゼン資料を見直しておくこと。</p>
5/17	金	3・4	<p>薬学教育学分野 生体防御学分野 地域医療薬学分野 薬学教育学分野</p>	<p>白石 博久 特任教授 大橋 綾子 教授 高橋 寛 教授 熊谷 明知 非常勤講師</p>	<p>被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ ・沿岸被災地についてまとめる。</p> <p>1. 災害時の薬剤師の役割に関して概説できる。</p> <p>【プレゼンテーション】</p> <p>事前学修：午前中の討議を振り返っておくこと。</p> <p>事後学修：各自で感想文を作成し提出すること。</p>

コミュニケーション入門、地域医療を学ぶ、未来の薬剤師像を描く（ドリームナビ）

4/11	木	3	地域医療薬学分野	高橋 寛 教授	<p>コミュニケーションの基本的スキルを学ぶ</p> <p>1. コミュニケーションに必要な要素を説明できる。</p> <p>2. コーチングとティーチングのスキルの違いを説明できる。</p> <p>【ロールプレイ】【ICT(moodle)】</p> <p>事前学修：自分が育った地域のことを調べ、他の学生に紹介できるようにまとめておくこと。</p> <p>事後学修：授業で学んだ内容をまとめること。</p>
		4	地域医療薬学分野	高橋 寛 教授	<p>コミュニケーションとコーチングの基本スキル（傾聴、承認、質問）を使って、問題解決の支援を学ぶ</p> <p>1. 傾聴、承認、質問の基本スキルを説明できる。</p> <p>2. 友人、関わる人々と好ましいコミュニケーションをとる。（態度）</p> <p>【ロールプレイ】【ICT(moodle)】</p> <p>事前学修：自分が育った地域の美味しい料理を調べ、他の学生に紹介できるようにまとめておくこと。</p> <p>事後学修：コミュニケーションスキルの体験後に感想文を提出すること。</p>
5/1	水	2	地域医療薬学分野	高橋 寛 教授	<p>介護体験実習オリエンテーション 実習の目的と注意事項を学ぶ</p> <p>1. 介護体験実習の目的と注意事項を説明できる。</p> <p>【双方向授業】【ICT(moodle)】</p> <p>事前学修：介護が必要な疾患や経管栄養や経静脈栄養について調べておくこと。コミュニケーションスキルを復習しておくこと。</p> <p>事後学修：実習までに準備しておくことをまとめておくこと。</p>
		3	地域医療薬学分野	高橋 寛 教授 野村 尚司 非常勤講師 佐々木 いずみ 非常勤講師	<p>認知症サポーター研修 認知症患者への係わり方を学ぶ</p> <p>1. 認知症患者の行動を知り、認知症の患者と接するときの心構えを説明できる。（態度）</p> <p>【ロールプレイ】【ICT(moodle)】</p> <p>事前学修：認知症サポーター研修用のビデオを見ておくこと。</p>

					事後学修：研修会の感想文を提出すること。
5/31	金	2	地域医療薬学分野	高橋 寛 教授	<p>地域医療を学ぶ</p> <p>1. 生活者本位の医療や介護の提供のあり方を説明できる。</p> <p>2. 地域医療におけるファーマシューティカルケアを説明できる。</p> <p>【対話・議論型授業】【ICT(moodle)】</p> <p>事前学習：自分が育った地域の医療や介護で問題になっていることを調べる。</p> <p>事後学習：地域医療をどう感じたか、感想文を提出すること。</p>
9/10	火	3	地域医療薬学分野	高橋 寛 教授 戸部 徹 非常勤講師	<p>地域医療を学ぶ</p> <p>SGD「医療上で起こる倫理的問題をみんなで討議する」</p> <p>1. 患者本位の医療提供のあり方を討議する。(☆)(態度)</p> <p>【グループワーク】【ディスカッション】</p> <p>事前学習：ケーススタディを読んで自分なりの考えをまとめておくこと。30分を目安とする。</p> <p>事後学習：グループワークで話し合った内容を整理しておくこと。</p>
		4	地域医療薬学分野	高橋 寛 教授 戸部 徹 非常勤講師	<p>地域医療を学ぶ</p> <p>発表、まとめ「医療上で起こる倫理的問題をみんなで討議する」</p> <p>1. 患者本位の医療提供のあり方を討議する。(☆)(態度)</p> <p>【プレゼンテーション】【ディスカッション】</p> <p>事前学習：グループワークの討議内容の発表の準備をしておくこと。</p> <p>事後学習：グループワークの内容や発表で出た意見をもとに医療上で起こる倫理的問題について感想文を提出すること。</p>
10/7	月	4	地域医療薬学分野 衛生化学分野	高橋 寛 教授 杉山 晶規 教授	<p>未来の薬剤師像を描く(ドリームナビ)</p> <p>薬剤師等の医療人として活躍している将来像を思い描き、それを写真や絵を使ってコラージュで表現する</p> <p>1. 社会の中で貢献し活躍している自分の将来像を描ける。(技能)</p> <p>【双方向授業】</p> <p>事前学修：コラージュ作成のため、あらかじめ、自分の夢・将来像を考え、それを表す写真や絵を収集しておくこと。</p>

					事後学修：作品（プロダクト）を各自で作成し、次回に提出できるように準備しておくこと。
10/21	月	2	地域医療薬学分野 衛生化学分野	高橋 寛 教授 杉山 晶規 教授	未来の薬剤師像を描く（ドリームナビ） 1. 社会の中で貢献し活躍している自分の将来像を描ける。（技能） 【プレゼンテーション】【双方向授業】 事前学修：作品（プロダクト）提出に向け、準備をしておくこと。 事後学修：作品（プロダクト）を各自で作成し、moodle上に提出すること。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	薬学生・薬剤師のためのキャリア アデザインブック ver.2	西鶴 智香	薬事日報社	2017

・成績評価方法

「人の一生と医療に関わる生命倫理」、「薬学共用試験および薬剤師国家試験について考える」、「被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ」、「介護・福祉施設で患者とのコミュニケーションを体験する」、「コミュニケーション入門、地域医療を学ぶ、未来の薬剤師像を描く（ドリームナビ）」の5つのパートで20%の割合で、参加態度、レポート、感想文などから評価する。レポートや感想文に関しては、提出後に添削や採点等を行い、適宜、フィードバックを実施する。

・特記事項・その他

体験型学習のため自ら進んで積極的に参加することが望ましい。事前・事後学修には、各コマあたり30分程度を要する。